



KAGOSHIMA Y'S MEN'S CLUB

2024. **9** 月号

鹿児島ワイズメンズクラブ No. 405

国際会長：A. Shanvaskhan [インド] より良い世界のために、共に
Together for a Better World

アジア太平洋地域会長：Joan Wong [香港] 大きなインパクトを起こそう
Make a Great Impact

西日本区理事：鶴丹谷 剛 [神戸クラブ] つなげよう地域と世界 YMCAとともに
Connect Local and World with YMCA

九州部部长：大崎 隆 義 [熊本さくらクラブ] 始めからもう一度



みつかる、つながる、よくなっていく

鹿児島クラブ会長 新内 博之

京都部部会 参加報告

鹿児島クラブ 松永 英明

9月7日土曜日に中堀ワイズと私で京都部部会に参加してきました。会場はウェスティン都ホテル京都。部会は、「あなたが主役」をテーマに三部構成で、第一部式典は15時からバナーセレモニーがスタート。入場テーマ曲が大相撲の開場を知らせる一番太鼓で沖縄を含む19クラブの会長が入場し、会場が一気に盛り上がりました。そして、山下大輔京都部部長の開会点鐘、部長挨拶、各来賓挨拶と式典は滞りなく行われました。第二部はアカデミー賞。これは「陰の立役者」「黒子」「名脇役」等をキーワードに各クラブおひとり推薦し表彰する場でした。京都部らしくとっても斬新で心温まる表彰式でした。第三部は懇親会。目玉は京都部素人名人会。各クラブが思い思いの芸を披露されました。当クラブとDBCを結んでいる京都ウェルクラブは谷村新司のモノマネを披露され、歌も上手くそっくりでした。あと飛び入りで中堀ワイズも参加されました。顔に何枚付箋を貼れるかでした。惜しくも2位でした。最後は牧野篤文実行委員長の挨拶で21時に終了しました。その後、京都ウェルクラブや各クラブのメンバーの方々と2次会、3次会と交流を深めさせていただきました。この部会では、松田会長を始めとする京都ウェルクラブのメンバーの皆様には大変お世話になりました。皆様のおもてなしに心より感謝申し上げます。京都ウェルクラブは来年5月24日は20周年記念例会を開催されます。



TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT



今年1年の会長通信では、テーマである「みつかる」「つながる」「よくなっていく」に関連した内容を発信してまいりたいと思います。

9月15日はサッカー J2鹿児島ユナイテッドFCのホームゲームにて、毎年恒例となったチアリーダーのお祭り、「チアデー」に参加するためにハーフタイムで出演してきました。南九州ダービーとなった対熊本戦の試合は残念ながら、0-2で敗戦しJ2残留が厳しいものとなってしまいましたが、約1万人もの観客を前に約100名のYMCAチアリーダーたちで選手、サポーターを元気づける一生懸命な演技で会場を盛り上げることはできたように思います。

鹿児島ユナイテッドFCの前身であるFC鹿児島と鹿児島YMCAは深い「つながり」があるのをご存知でしょうか？時はさかのぼること15年前。私はYMCAにお世話になるか、FC鹿児島の職員になるかの選択をしなければならない時期がありました。FC鹿児島、そして現在も鹿児島ユナイテッドFCの代表である徳重氏は小学校の同級生。もともとスポーツの世界で働いていた経歴から、サッカーの道を選ぶのが自然なことだったのかもしれませんが、神様のお導きがあったのでしょう。タッチの差で声をかけてもらったYMCAへの恩義を優先し今に至るわけです。

まだ鹿児島にJリーグの機運がなかったころ、サッカー界における人間関係の複雑さから周囲の誰しもが鹿児島でJリーグのチームは無理だと言っていた時代です。YMCAの道を選んだ私でしたが、鹿児島YMCAでチアを習う子どもたちを連れて、FC鹿児島のホームゲーム運営を手伝いながら、その無理だという意見をたくさんいただきました。当時のフロントを切り盛りし、現在は営業部長の要職にある東さんとは鹿児島にいる方々がサッカーで生きがいや楽しみを見つけられる日が来るから一緒に頑張ろうよと声を掛け合っていたものです。最初は身内や知った顔しかいなかった数十人の観客は、いつしかJ2でも屈指の観客動員数を誇る鹿児島になくはならないサッカークラブへと変貌しました。先日のホームゲームでは約1万人の観客、そして何より多くの子どもたちが、心から応援したいと思うチームを「みつけ」、サッカーを媒体にたくさんの「つながり」を楽しみ、そして、子どもたちが未来を託したくなる素敵なチームへと成長し、それぞれの人生が「良くなっている」ことに寄与しています。

このサッカーチームの歩みは、私たちワイズメンズクラブやYMCAにとっても同じことなのではないかと思います。ワイズ活動で見つけたこと、ワイズメンとしてのつながり、そして何よりワイズメンであることでより良くなっていく人生。この魅力はサッカーチームに引けを取らない素晴らしいものだと思うのです。鹿児島ユナイテッドFCは無理だ、成功しないとさんざん陰口をたたかれました。私もその陰口をたたかれた当事者の一人かもしれません。しかし、サッカークラブの職員、選手だけでなく、応援しているサポーターたちが、自分たちが知る魅力を地道に説いて回った結果が、今の鹿児島ユナイテッドFCだと思います。ワイズメンズクラブもメンバーが減ってきているといった課題はありますが、まずは私たち一人一人がワイズの魅力を地道に説いて回れる存在になっていきたいものです。



暦上では立秋も過ぎ、朝夕には時折秋の気配も出て参りましたが、まだ残暑は続きそうです。夏の疲れが出始める時期ですが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。日本でも夏には40℃近い日々や、豪雨等による甚大な自然災害が半ば日常的な事となり、本当に気候変動を肌身に感じます。8月チェンマイ国際大会のエクスカッションで訪問のサオヒン YMCA では、気候変動やエネルギー問題など環境教育に熱心に取り組んでおり、我々日本のワイズ・YMCA の枠組みにおいても学ぶべき所が多いと感じました。

また、今年は被爆から79年目となりました。決して平和とは言えない昨今の世界情勢にあって、広島では福山クラブの木原世宥子ワイズがプロデュースの平和創作劇 IPRAY2024 が公演され、広島YMCA・ユースリーダーによる International Youth Peace Seminar2024(Y's×SDGs Youth Action2024 支援活動) が実施されました。ユースが関わり考え、世界とも繋がりながら平和活動を発信する事は、未来への平和創造に対して大きな意義を感じます。来年は被爆80周年。更なる平和への活動推薦を願っています。

そんな中、8月はタイ・チェンマイにてYMIの第74回国際大会が盛大に開催され、世界のメンバーと繋がりました。国・民族・宗教を越えてフェアな関係で繋がる我々のような国際友好団体の存在は、ある意味今の世の中において貴重な存在と感じます。日本ワイズ70周年史にも、かつて世界のメン

バーがそれぞれの国際的な繋がりを駆使し、紛争の平和的解決に向け働きかけをした歴史が記録されていますが、今我々自身も世界の社会課題へ働きかけ、変革する術を持ち得ているのです。我々は志を共にした世界のメンバーと繋がって(Connecting)いるのです。

さて、7月27日(土)は今期初の周年例会として和歌山紀の川クラブ40周年祝会に参加をしました。150名近いメンバーが集いお祝いをいたしました。YMCA、ユースとの繋がりを本当に大事にされているクラブです。また京都での京都パレス・ウエスト・エイブルクラブの合同例会、名古屋での名古屋・名古屋グランパスの合同例会にも参加をし、ともに今期への会員増強への力強い意気込みを伺えました。9月はEMC強調月間です。活動の盛んな秋シーズンに向け是非各クラブ会員増強への弾みをつけてください。

いよいよ部会シーズンです。我々西日本区メンバーも是非この機会を通じ、部内での研鑽のみにとどまらず、積極的に部を越えた交流をし、よりよき繋がりをもち親睦を深めてください。皆さま部会で笑顔をもってお会いしましょう！

八代クラブ35周年記念例会報告

鹿児島クラブ 松永 英明

9月15日曜日に松若ワイズ、中堀ワイズと私で八代クラブ35周年記念例会に参加してきました。会場は八代ホワイトパレス。今回はユースリーダーを中心に企画、運営し八代クラブの皆様は黒子に徹し、開催された記念例会だとお聞きしました。八代クラブと言えばデイキャンプ。デイキャンプを中心にクラブを運営され、西日本区の役員や各事業にも積極的に参加されている印象があります。式典ではパワーポイントを使いながら守田会長がクラブの35年の歴史を振り返り、その時の出来事や思い出をお話してくれました。八代クラブらしい心温まる式典でした。懇親会では、スポンサークラブとして熊本クラブの大村豊ワイズと熊本ジェーンズクラブの上村眞智子ワイズから創立時の思い出話や激励のお言葉をいただきました。今回西日本区からも鵜丹谷理事を始め役員の皆様、京都部から京都ウェルクラブの皆様、そして九州部各クラブからたくさんの方々、69名がお祝いに駆けつけていました。これまでの八代クラブの活動の賜物だと思います。本当に素敵な記念例会でした。最後に八代クラブの皆様のおもてなしに心より感謝申し上げます。



8 August

8月例会報告

日 時：令和6年8月27日(火) 19:00 ~ 20:30
※台風の影響のため定例会は中止になりました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



今月の樹 クコ



クコ(枸杞、学名: Lycium chinense)は、東アジア原産のナス科クコ属の落葉低木。荒地などに見られ、夏から秋にかけて薄紫色の花を咲かせて、秋に赤い果実をつける。有用植物で、食用や薬用に利用される。北アメリカなどにも移入され、分布を広げている。別名、ウルフベリー、ゴジベリー。中国植物名は枸杞(拼音: gǒuqǐ)。非常に有用な植物で、葉や果実が食用、茶料、果実酒、薬用などに、また根は漢方薬に用いられる。萌芽力が強く剪定にも耐えるため、庭園樹や生け垣に利用されることがある。挿し木や株分けで、容易に繁殖することができる。



鹿児島ワイズメンズクラブ
WEBサイトはこちら▶



今月の聖句

私は道であり、真理であり、命である。

(ヨハネ14章6節)



USA Allstar Challenge Competition 2024 WEST 出場報告

競技大会にチャレンジしている鹿児島 YMCA チアダンススクールの CAST Magic が、大阪府立体育会館で開催された西日本地区の大会に 8 月 24、25 日と出場してきました。新しいシーズンを迎えての初めての大会。それぞれの課題と向き合い、準備してきたものを出すという難しさを体験できた良い機会でした。

高校生チームの Faith が 2 位、小学生チームの Flame も 2 位、小学生低学年チームの Swimmy が 1 位とそれぞれ好成績を収めることが出来、良いシーズンスタートとなりました。



西日本地区 YMCA 役員研修会

9 月 7 日（土）に福岡 YMCA 主管の西日本地区 YMCA 役員研修会が開催されました。広島以西の YMCA より 23 名の役員が集い、役員の役割とキリスト教について学びました。YMCA 役員の一部にはキリスト者でなければならないという条項がある中で、受洗せずともキリスト教を理解している人、キリスト教を礎とする YMCA 運動に賛同する者も広義的にキリスト者として考える余地はないのかという、職員の間でも時として難しいテーマとなる YMCA 運動とキリスト教の在り方について深く考える時間であったと思います。



鹿児島ユナイテッド FC ホームゲーム出演

9 月 15 日に行われたサッカー J2 かごしま FC のホームゲームで開催された「チアデー」に約 100 名で出演してきました。約 1 万人の前で、応援する楽しさを学ぶと共に、見に来ている観客を元気づけたい、勇気づけたい、笑顔にしたいといったミッションを遂行できたと思います。子どもたちも大勢の前で踊ることと楽しい思い出深い 1 日になったと思います。



鹿児島YMCA 新内 博之